

みずほCustomer Desk Report 2020/06/24 号(As of 2020/06/23)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.97
	GBP/USD	AUD/USD			
TKY 9:00AM	106.90	1.1278	120.56	1.2499	0.6929
SYD-NY High	107.22	1.1348	121.08	1.2532	0.6974
SYD-NY Low	106.08	1.1233	119.91	1.2434	0.6858
NY 5:00 PM	106.52	1.1309	120.42	1.2520	0.6930
NY DOW	26,156.10	131.14	日本2年債	-0.160	0.00bp
NASDAQ	10,131.37	74.89	日本10年債	0.004	0.10bp
S&P	3,131.29	13.43	米国2年債	0.189	▲0.60bp
日経平均	22,549.05	111.78	米国5年債	0.329	▲0.95bp
TOPIX	1,587.14	8.05	米国10年債	0.714	0.50bp
シカゴ日経先物	22,570.00	▲40.00	独10年債	-0.4070	3.05bp
ロンドンFT	6,320.12	75.50	英10年債	0.2120	1.90bp
DAX	12,523.76	260.79	豪10年債	0.9100	4.00bp
ハンセン指数	24,907.34	396.00	USDJPY 1M Vol	6.11	0.46%
上海総合	2,970.62	5.35	USDJPY 3M Vol	6.64	0.27%
NY金	1,782.00	15.60	USDJPY 6M Vol	7.56	0.30%
WTI	40.37	▲0.36	USDJPY 1M 25RR	-1.23	Yen Call Over
CRB指数	138.59	▲0.46	EURJPY 3M Vol	8.53	0.08%
ドルインデックス	96.65	▲0.39	EURJPY 6M Vol	8.80	0.08%

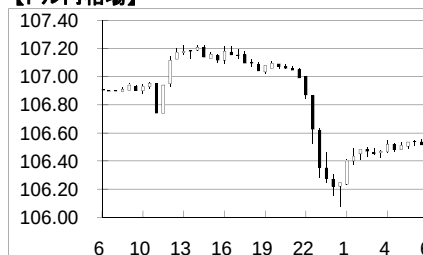
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月23日	17:30	英 マークイットサービス業PMI・速報	6月 47	40
	17:30	英 マークイットコンボジットPMI・速報	6月 47.6	41.2
	22:45	米 マークイット製造業PMI・速報	6月 49.6	50
	22:45	米 マークイットサービス業PMI・速報	6月 46.7	48
	22:45	米 マークイットコンボジットPMI・速報	6月 46.8	-
	23:00	米 新築住宅販売件数	5月 676k	640k

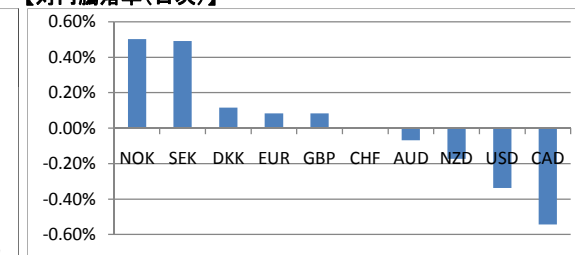
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月24日	08:50	日 日銀金融政策決定会合 主な意見	-	-
	17:00	欧 独IFO企業景況感指数	6月 85.0	79.5
6月25日	04:00	米 ブラード・セントルイス連銀総裁 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 辛抱(ステイ・マーケット)する木に金になるとは言うが...

新型コロナウイルスの感染拡大により2月から急落した株式市場。その後、世界的に財政・金融政策が打ち出され、3か月ほどで下落前の水準まで回復。果たして一体どれほどの人がこの動きを予想できたのだろうか。原油相場も同様だ。一時、マイナス圏にまで暴落したN Y原油先物市場。主要国の経済活動再開で需要環境が改善する一方で、産油国の大幅減産で需給の引き締めりへの期待から、気が付けば40ドル台を回復。「長い目で投資するのであれば、目の前の価格変動に一喜一憂することなく辛抱せよ」という本日の表題の格言通りとも言える。いや、この相場環境でステイ出来る程、投資家心理は穏やかでなかったであろう。

一方でドル/円相場は他資産に比べて相変わらず水準の推移が続いている。昨日も米中貿易交渉に関する高官発言等で東京時間は値幅が出たものの、下がれば買いが入り、上がれば売りが入る一進一退の攻防が続く。エントリーを見誤った時のことを考えると、他資産の様にトレンドが出ないと判断が下せない投資家は多いのではなかろうか。ドル/円相場に携わる投資家は、ステイしているのではなく、ステイ「させられている」状態とも言えるかもしれない。しかし、逆に言えば、今の相場はエネルギーを蓄えているのかもしれない。少し不気味だ。

変動率を用いたテクニカル分析の一つ、ボリンジャー・バンドを見ると少しバンドが開きつつあり、昨日は-2σのバンドの下限水準近くまでは円高が進行した。東洋(アジア圏)では正規分布に従って適正価格の平均値に再び戻ると考え逆張り戦略が好まれる一方で、西洋(欧米圏)では±2σを超える水準は一時的にその方向へのトレンドサインが出たとして順張り戦略が好まれるとも聞く。明日で全国緊急事態宣言解除からちょうど1か月を迎える。ドル/円相場は次のテクニカルサインがステイ・マーケットからの脱却への糸口となるか。(大庭)

■今週のドル/円 見通し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	小林
ベア	ブル	ベア	ベア	ブル	ベア	ベア	ベア	ベア	ベア

ブル	ベア
6	14

東京	東京時間のドル円は106.90レベルでオープン。ナホ大統領補佐官が「It's over」と発言したことが米中関係の悪化を想起させ、米株先物を中心に株式市場が軟調に推移。ドル円も106.74付近まで下落。しかし、その後、トランプ大統領をはじめ、米高官から火消しの発言がなされると、株式市場は反発し、ドル円は堅調に推移。107.22付近まで上昇した後、107.18レベルでクロス。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、107.18レベルでオープン、閑散とした値動き。約20銭のレンジで上値を切り下げながら推移し、106.99レベルでNYに渡った。ポンドドルは1.2461レベルでオープンし、新規材料に欠けるなか、広いレンジで売り買いが交錯。一時1.2434まで売られる局面もあったが、7月4日から飲食店の営業再開と、社会的距離を2メートルから「1メートル以上」までに短縮することが英議会で決定した報道を受けてか、正午はポンド買いに転じて再び上昇。1.2466レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は、「ナホ大統領補佐官がテレビのインタビューで「中国との通商協議は終わった」と発言した」と報じられたことからリスクオフの流れが強まり、米株先物の急落とともに円買い優勢となり、106.74まで下落する。しかし、ナホ氏や外ロ米NEC委員長が同報道を否定すると流れが一転し、107.21まで反発上昇。買い一巡後も107円台前半で推移し、106.99レベルでNYオープン。特段のヘッドラインは見当たらず、米経済指標発表への反応も限定的だった中、朝方はドル売りが強まる。米株の上げ幅縮小を眺めながら、円も買われ、先週の安値(106.58)付近の水準を割り込むと下落が加速し、ストップロスを巻き込みながら106.08をつける。ドル一巡後は、米株が持ち直し、ナスダックが過去最高値をつける中、106.50近辺まで買い戻される。午後はカルフル州で1日当たりの感染者数増加が最多になったことや、ムーンシー米財務長官がインタビューで新たな景気対策法案が7月に可決する可能性があることと述べたことが伝わるも、ドル円の反応が限定的だった。終盤にかけて小動きとなり、結局、106.52レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは、先週のナホ氏に関する報道を受けて、1/47のドル買いが強まり、1.1233まで下落するが、同報道否定後は1.12台後半まで値を戻す。その後、ユーロ圏、フランス、ドイツの6月PMIが予想を上回ったことが好感され、ユーロ買いが強まり、1.1307レベルでオープン。欧州株や米株先物の堅調推移が意識されたためか、朝方はユーロの買い戻しが加速し、1.1348まで上昇。買い一巡後は再び安推移。午後にEUが国境再開にあたり米国を除外する可能性があることと報じられたこともユーロドルを圧迫。終盤にかけて一時1.1302をつけ、1.1309レベルでクロス。本日、メキシコ南東部で大規模な地震が発生するも、ドル円やユーロドルへの影響は限定的だった。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。